相談支援担当者研修会

静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会

〒420-0017 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180

助成事業の概要

相談支援担当者研修会は、毎年 1～2 回センターの相談支援担当者の資質向上を図る目的で行っているものです。障害者就業・生活支援センターの相談員は地域の就業支援の中心になる存在です。また事業が就業と生活の一体的な支援を提供するものであることから相談員は高度な支援技術を身につけていなければならないと考えています。

就業支援においては、企業（事業所）との交渉という場面も多くなると想定しています。障害者就業・生活支援センターを運営する多くの法人が知的障害者の支援法人であることから職員も福祉畑出身者が多数を占めています。これらの職員は福祉と言う限られた（狭い）社会に身を置いているので一般企業（事業所）の人からどう見られているかあまり考える機会がありませんでした。障害者就業・生活支援センターの相談員は企業（事業所）との接点が多くあるので自分たちが企業（事業所）からどう見られているかを知っておくことがどうしても必要であると考えこの研修会を企画しました。

事業の成果

平成 27 年 3 月 16 日に静岡県総合社会福祉会館シズウエルにおいて開催した。県内 8 圏域にあるすべての障害者就業・生活支援センターから相談担当者が集まった。日頃相談支援に携わっている職員も外部研修の機会はそう多くない。直接

採用に関わりその後も職場で深く関わっていただいている人の話を聞くことができたことは出席者の今後の活動（相談支援）に役立つものであったと思う。

最近は障害者の働く場が広がりを見せている。センターの相談担当者もこの動きに一役買っているが、なかでも介護分野では人手不足で人材確保の点からも障害者の雇用について検討しているところが増えている。ただ採用にあたっては懸念材料も多く、二の足を踏んでいるのが現状である。このような介護分野へ人材を送り込む側として、相談支援担当者が採用や職場で関わっている人との関係を持つことは必要である。今回の研修はこの関係を作るという点で意義があった。相談支援担当者は、就業支援を行う際に介護現場の現状を把握しておく必要があるが、実際に現場を見ておくことはなかなかできない。講師として来ていただいたのは、地元の社会福祉法人で運営している特別養護老人ホームの施設長で、今まで身体、知的、精神の各障害者の受入の経験がある方であったので、実際に障害者が働いている様子や仕事上の課題がどのようなものであるか、わかりやすく説明をしていただいたこともあり、相談支援担当者の頭の中に残ったことと思われる。このことは今後の相談支援の場面で役に立つものと思う。また施設では、障害者の採用についてどのように考えているかについてもよくわかったのではない。介護分野の職場では、特に作業とのマッチングや他人への配慮が重視される点で、他の職種とは異なる点も多い。その現場で働く人の話を直接聞くことができ、出席した相談支援担当者に

とって良い経験になったことと思う。この経験を活かし各地域で相談支援にあたっていきたい。

■ 成果の広報・公表

各センターでは、活動の公表にインターネットのホームページを活用している。センターの活動の一環として、ホームページ上での公表をお願いしている。またセンターによっては広報誌を発行しているところもあるので、記事として載せて貰うようにしている。

連絡協議会としては、定期総会での報告と当日の講演内容とグループワークの結果、写真をまとめた冊子「相談担当者研修会報告書」を発行し、各センターを通じて関係する行政機関、企業、障害福祉サービス事業所、障害者団体、特別支援学校に配布し、障害者就業・生活支援センターの事業についてなお一層理解、周知していただくために活用する予定である。

各センター共、地域の中での障害者就労支援について中心的な役割を果たしており、個別の支援の場面ではもちろん、各種会議に参加した折に相談員の資質向上の取り組みとして紹介していこうと考えている。

■ 今後の展開

静岡県において障害者就業・生活支援センターを運営しているのは各地域の有力な法人である。

このため各センターに配属されている職員も組織の常として定期異動がある。したがって職員がセンターの相談員としてあり続けることは難しい面がある。一方相談者や連携機関からは相談担当者の相談支援技術や知識の向上が求められている。配属されてすぐに相談の現場に立たされるわけで新しい職員にとっては苦勞するところである。各センターでの教育は引き続き行っていくが、

連絡協議会としても毎年相談担当者の研修会を行っていく必要がある。各センターでの教育に、この「相談担当者研修会」で得た情報や支援技術、講演内容を役立てて貰いたいと思う。

また研修の内容にロールプレイング等を取り入れ、より実践的な相談支援技術を身に付けていきたい。連絡協議会として、各センターの相談員がそれぞれ相談支援技術を磨き、県全体として障害者就業・生活支援センターの相談支援スキルが向上するようにサポートをしていきたい。